

### (3)ステンレス製流し台製造技術を日本から中国に

1980年5月から、福島県いわき市に位置する流し台製造メーカーのクリナップ株式会社は、中国の技術研修生を受け入れることになり、1年に30名、5年間も続けた結果、合計106名の技術研修生がステンレス製流し台など近代的な厨房設備の製造技術を習得し、中国の新しい厨房産業を支える中枢となる技術者が養成された。

これらの研修生たちは、実質労働力としての次代研修生と大きく異なり、ほとんどの研修時間を、研修工場技術者の指導下における理論知識・商品設計・工程管理などの勉強に費やされる。1年間の研修が終了する1か月ほど前になって初めて生産ラインでの短時間実習を経験するので、会社に対する生産性価値と呼ばれるものではけっしてない。そのかわりに、毎年研修生のためにかかる諸費用は5000万円を上回る。

これほど大勢の中国研修生を、労働力ではない形で5年間も受入れたのは、当該会社の当時社長である井上登先生の戦争時代に経験した中国での経歴、そして中国及び中国人への思いやりに負うところが大きいという。

当協会現研修事業部長李聚会氏は、研修生の当時派遣団体である中華全国总工会とクリナップ株式会社との交渉に参加し、そして第一次研修団の1年間の研修活動に参加し、日中間に稀に見る形の研修事業の一部終始を目の当たりにした。

合計106名に上る研修生たちがクリナップの工場で、日本人技師が手に手を取って教えてくれた製造技術を中国に持ち帰り、中国の新しい厨房産業の旗揚げに取り組む。

